

授業実践（各教科・自立活動）

校種(学年)	高等部
教科	家庭科
単元	ボタンの留め外し

【単元のねらい】

- ・ボタンの留め外しをスムーズに行うことができる。
- ・指先の巧緻性・操作性を向上させる。

【授業の概要・工夫点など】

1 ボタンを押し入れる練習

【準備物】 ガムボトル・ボタン

【作り方】 ガムボトルの入れ物の蓋にボタンが通る穴をあける。

2 ボタンを通していく練習

【準備物】 柔らかいマットの切れ端・ボタン

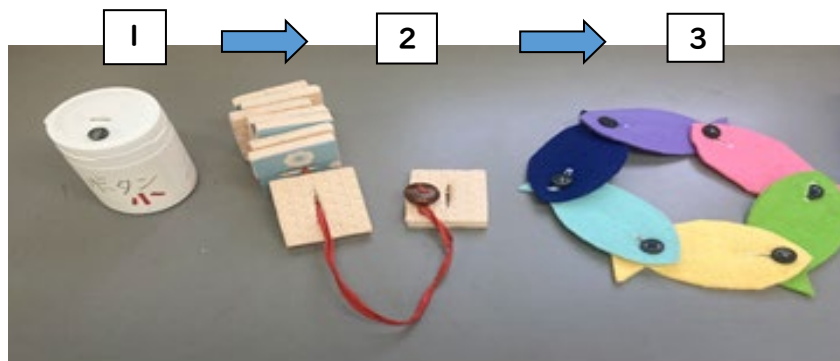
【作り方】 正方形に切ったマットに切り目を入れて、紐にボタンを通していく。

3 ボタンを留める練習

【準備物】 フェルト・ボタン(大・中・小)

【作り方】 フェルトを魚の形に切りボタンが通る穴をつくり、魚のしっぽにボタンを縫いつける。

【教材の写真】



【児童・生徒の変容など】

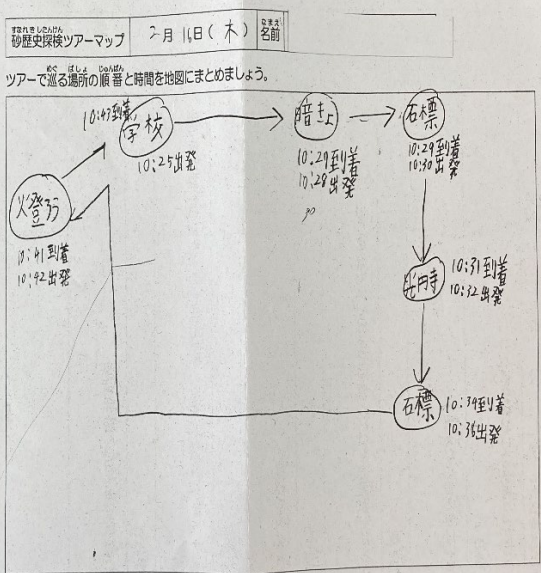
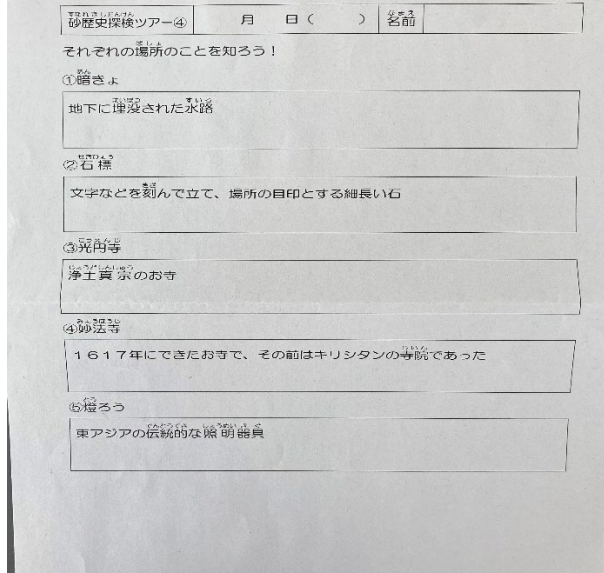
毎授業で短時間取り組むことで、楽しみながら学ぶことができました。

授業実践（各教科・自立活動）

校種(学年)	中学部(1～3年生)
教科	数学
単元	「砂歴史探検ツアー」

【単元のねらい】
<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちでスケジュールを組むことができる。 ・集団で歩く時の速さを実際に求めることができる。 ・ツアーを通して達成感を味わう。

【授業の概要・工夫点など】
<ol style="list-style-type: none"> ① 「歩く速さ」「距離」「時間」について学習する。 ② 学校周辺の地域の歴史について学んだあと、自分たちでツアーマップを作成する。【左下写真】 ③ 実際に歩いてみて、ツアーマップの予定通りに進んだかを振り返る。

【ツアーマップの写真①】	【ツアーマップの写真②】
 <p>砂歴史探検ツアーマップ 2月11日(木) 名前</p> <p>ツアーで巡る場所の順番と時間を地図にまとめましょう。</p> <p>10:41到着 10:42出発 (火燈坊)</p> <p>10:41到着 10:25出発 (学校)</p> <p>10:29到着 10:29出発 (暗土)</p> <p>10:30到着 10:30出発 (石標)</p> <p>10:31到着 10:32出発 (浄土真宗のお寺)</p> <p>10:37到着 10:38出発 (石標)</p>	 <p>砂歴史探検ツアー④ 月 日 () 名前</p> <p>それぞれの場所のことを知ろう！</p> <p>①暗きよ 地下に埋没された水路</p> <p>②石標 文字などを刻んで立て、場所の目印とする細長い石</p> <p>③浄土真宗のお寺 1617年にできたお寺で、その前はキリシタンの寺院であった</p> <p>④燈ろう 東アジアの伝統的な照明器具</p>

【児童・生徒の変容など】
<ul style="list-style-type: none"> ・速さを身近に感じられるようになった。 ・スケジュールがイメージ通り進んだことで達成感を味わい、自信につながった。

授業実践（各教科・自立活動）

校種(学年)	中学部
教科	国語
単元	「4コマ漫画作文」

【単元のねらい】

- ・絵にあった文章を考える。
- ・行事や出来事を4コマ漫画であらわす。

【授業の概要・工夫点など】

【概要】

- ① イラストを見て時系列や事柄の順番を考える。
 - ② イラストにあう文章を考える。
- (応用)・抜けているイラストの部分を考え、文章を考える。
- ・4コマの1コマを自分で考え、イラストと文章を書く。
 - ・行事について4コマ漫画作文で時系列や事柄の順番に作文する。

【工夫点】

段階を追って取り組んでいくことで、作文に慣れる。

【参考文献】

4コマまんが作文マジック
村野聡 著 学芸みらい社

【児童・生徒の変容など】

文章を書くことが苦手な生徒が回数を重ねることで、自分で文章やイラストを考えて取り組むことができるようになった。

書いたものを授業内で共有することでたくさんの考えに触れることができた。

授業実践（各教科・自立活動）

校種(学年)	高等部(1年生)
教科	国語
単元	「説明を聞いてブロックを組み立てよう」

【単元のねらい】

【出題者】

相手に伝わりやすい言葉で話したり、順を追って説明したりすることができる。

【聞く側】

相手の話をしっかり聞く、丁寧な言葉で質問をすることができる。

【授業の概要・工夫点など】

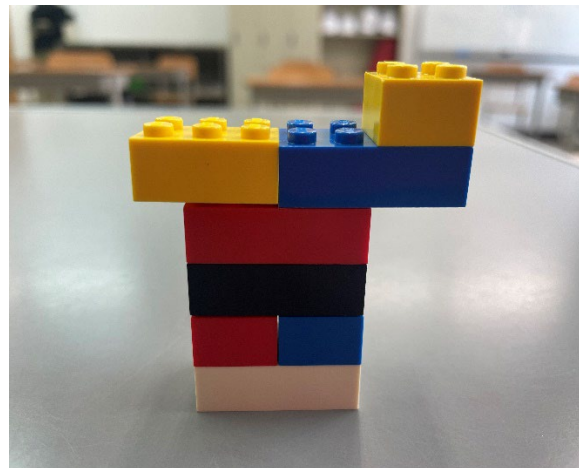
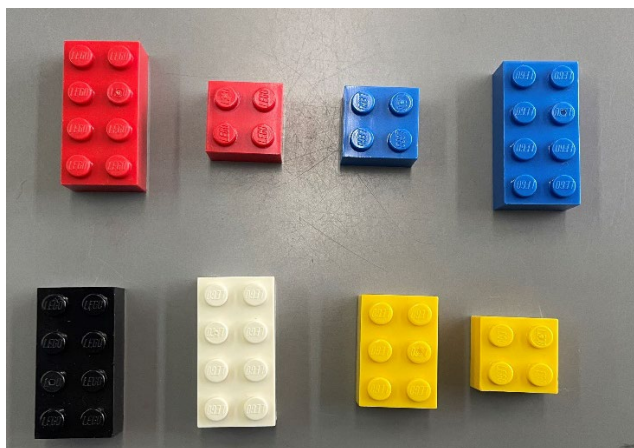
【概要】

出題者の生徒がブロックを好きな形に組み立てて、その手順や形を相手に伝える活動。（聞く側からはブロックが見えないように工夫する）

【工夫点】

- ・はじめは教員が出題者生徒が聞く側で進めることで、活動の見通しが持ちやすくなった。
- ・聞く側の定型文「もう一度お願いします」などを提示しておく。

【教材の写真】



【児童・生徒の変容など】

- ・授業の回数を重ねるごとに質問の仕方や伝え方が上手になっていった。
- ・本活動以外にも授業中に質問の仕方を工夫する様子がみられた。

授業実践（各教科・自立活動）

校種(学年)	高等部(1年生)
教科	自立活動
単元	「目隠しコインチャレンジ」
自立活動の区分・項目	コミュニケーション (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること

【単元のねらい】

【誘導係】

相手の状況を見ながらわかりやすい指示を出すことができる。

【歩く係】

集中して指示を聞き、身体を正しく動かすことができる。

【授業の概要・工夫点など】

【概要】

誘導係の指示を聞いて、目隠しをした歩く係が少し離れた数枚のコインをゲットする。

【工夫点】

誘導係…事前に前後左右や斜めなどの方向を確認しておく。(掲示板があっても良い)

歩く係…『〇歩前に進む』『〇歩右に歩く』など伝えやすいポイントを伝えておく。

【実際の様子】



コイン

【手順】

【手順】

- ① 歩く係が、立ったまま目隠しをする。
- ② 誘導係が、2～3 m離れた地面に数枚のコインを置く。
- ③ 誘導係が、口頭で指示を出し、歩く係を誘導し、コインをゲットさせる。
- ④ 歩く係が、すべてのコインを手にしたら終了。

【児童・生徒の変容など】

- ・繰り返し取り組むことで、友だちと協力しようとする姿勢が見られました。
- ・どちらの役も実践することで、より相手の立場を考えて伝えることができるようになります。